

2025 年度 第 6 回北海道レフェリーアカデミー 事業報告書

報告者：高橋陽斗（十勝地区）

【日 時】2025 年 9 月 6 日（土）9 月 7 日（日）

【場 所】キックロスおとふけ、木野コミュニティーセンター、中札内交流の杜サッカー場、帯広北高校

【参加者】審判員：伊藤唯翔、二谷夢翔、鈴木辰汰、高橋陽斗

インストラクター：古曾部統太郎 氏（RAM）今川一輔 氏（RAI）

岡田渉 氏（RAI）伊藤真也 氏（RAI）

オブザーバー：森英樹氏（十勝地区サッカー協会審判委員長）

常谷哉太氏（十勝地区 2 級審判員）

【テーマ】「自分は何を伝えたいのか、相手はどう思うか」

9 月 6 日（土）

9:00 集合 音更町サッカー場（キックロス音更）



10:25 試合実戦①

2025 年度 十勝地区カブスリーグ U-15（後期）（1 部）

帯広翔陽中 vs 川西中・大空学園 R：鈴木 A1：高橋 A2：二谷 4th：古曾部 RAM

〈自己分析〉

普段あまり行わないカテゴリーの試合で手探りでありながら選手の為を軸にしてレフェリングをすることを意識した。14 分のハンドで PK の場面では、ハンドの反則の競技規則の理解を改めて考えるきっかけとなった場面となった。また、今回は RAC 生として自分達が審判をする事の意味について考える場面がいくつもあり、特に育成年代の選手たちには「これはダメなプレーだよ」（例えば、スローインの反則など）と伝えるという大切な役割も担っているのではないかと考えさせられた試合であった。

〈INS 分析〉担当 INS：伊藤 RAI

普段とのカテゴリーの違いに関わらず、目的の達成や課題を克服しようと臨んだ様子が伺えます。また 8 月の全国研修を経て少し自信がついたように思います。

動きについては、以前はフィニッシュに至るまでポジションを内側に位置し、そのまま近づいてフィニッシュを監視することが多かったですが、今回はタイミングよく R サイドに角度をとって監視できていたところは良かったです。ただし、選手は、主審が良い動きをしてくれたら嬉しい（安心・納得）のでしょうか？ まずは的確な判定をしてきて、尚且つその判定が説得力ある位置で判定してくれたら安心・納得できると思います。課題を持って動きとポジショニングの改善に取り組むことは重要なことですが、動きとポジショニングの目的は「判定する」ためのものであることを改めて認識して、今後の試合に取り組んでください。

12:10 移動・昼食

13:30 競技規則講義「ファウルと不正行為」担当：古曾部 RAM

本講義では試合事象映像を INS 含めて分析した。1つ目は軽い接触はあるがボール移動方向と身体移動方向が一致しない事象、2つ目はヘディングの競り合いの事象、3つ目は危険な挑み方でボールにチャレンジした事象であった。特に2つ目の事象では意見が分かれたが、重要なのは自分がどのような考慮事項（優先権、先に触れたのはどちらか等）から総合的に判断し、根拠をもって判断することであるということを改めて学ぶことができた。

14:30 試合振り返り＊ベンチ役員（伊藤）から審判団はどのように見えたか 〈ベンチ役員伊藤より〉

1 試合を通して大きなストレスを感じることはなかったが、角度的に自分からは見えない反則に対して疑問を抱く場面があった。これは、自分がレフェリーをしている時にもベンチが同じように感じているのだと気づくことができた。また、副審のシグナルや姿勢が非常に整っており、説得力があった。

今回の試合では見られなかったが、ゴールキーパーへのチャレンジは、ベンチから見ていて危険に感じることがある。

今回得た気づきを、今後のレフェリングに活かしていきたいと思う。

15:15 審判員プレゼンテーション 全国研修報告（IH、U15GY、U22 研修会）

7.8月に行われた全国研修の報告を行った。プレゼンの時間が自分の思っている時間と誤差があることや、よりわかりやすく内容を伝えるためのスライドの工夫などを改善点として今後修正していきたい。



16:30 RAI 講義「実録！マンマネジメント」担当：今川 RAI

本講義は今川 RAI の実体験を交えた内容の講義で、マネジメントで段階を踏むことや、言葉だけでなくジェスチャーを用いることによってよりわかりやすく伝えられることができると学んだ。また、言葉選びは特に重要で、伝えたいことは同じであっても、選んだ言葉がその選手に適切でなければ、マネジメントは逆に難しくなる危険もある。

〈接し方まとめ〉

1. ポイントは言い方（話し方）
2. 気付き（予防・抑止力）

※小さい問題が大きな問題になっていくので、小さいうちからマネジメントする。

※火は完全に消化してから次へ。中途半端にしない。



3. 競技者の心情や感情を理解した上での説明の仕方や言葉の選択をする。
4. 明らかな反則（無謀）には声掛けは必要なし（直にイエローカード）
5. 経験・関係性（人として）も重要である。

17:30 諸連絡・解散

9月7日（日）

8:30 集合 中札内交流の杜サッカー場



10:00 試合実践② 2025 年度 北海道サッカーリーグ 第 23 回 道東ブロックリーグ

第 10 節 蹴鞠会 vs FC コパン R：二谷 A1：高橋 A2：鈴木

〈自己分析〉

一貫した判定基準で試合を終えることができたと思う。直近の試合の課題であったアドバンテージの適用も試合の展開を読み適切に適用することができた。一方、DOGS0 の監視と状況整理について、課題を認識した。試合後のスモールプラクティカルでも行ったが、守備側競技者の位置の考え方を改めたいと感じた。監視する際には、横の距離はもちろんのこと、縦関係も考慮しなければならないと学んだ。

〈INS 分析〉担当 INS：今川 RAI

概ね判定基準は安定していました。41 分赤 38 番の警告（反）は SPA の状況であり判定・判断とも正しいと認識しています。49 分、58 分（ロールバック）のアドバンテージについては的確な適用でした。積極的なアドバンテージの適用は良かったと思います。

改善点としては、32 分コパン GK の負傷時におけるドロップボール（プレーを停止するタイミング）です。場面や競技者の位置関係、公平性、緊急性など考慮することを望みます。負傷対応は競技者、ベンチ、観客の主審に対する信頼度に直結します。

12:15 移動・昼食

13:30 試合振り返り



14:00 フィジカルトレーニング「ランニングフォームの検証等」担当：岡田 RAI

今回のトレーニングでは自分のランニングフォームを横・後ろから撮影し、姿勢や足の上げ方などより速いスプリントをするためにはどのようにすれば良いのかを学んだ。高いスプリント力が求められる現代サッカーに対応できるよう、個々に応じた課題とその対応策を検証することができた。

- ① 地面に足がついている時間をできるだけ短くする
- ② 身体を大きく前に動かすトレーニング

上記の 2 点の実践により、自分の走るフォームに変化が感じられたと思う。日常トレーニングでも取り入れることのできるものがあったので取り入れたい。

15:30 諸連絡・解散